

# 巻頭言



支部長 新屋 保 則

みなさん こんにちは！

節分も過ぎ、通常開催となった札幌雪祭りも終了し、日々の日差しが強くなり春が待ち遠しい季節となりましたが、会員の皆様は如何お過ごしでしょうか？

昨年 2 月 24 日、ロシア軍がウクライナに進行して早や 1 年になり、多くの犠牲者が出ております。世界中の多くの人々が戦争の早期終結を願っていましたが、それも叶わず大変残念でなりません。

また、新型コロナウイルス感染症も 11 月下旬には第八波のピークを迎え終息が見えず、1 月 16 日には発生から 4 年目を迎えました。そのような中、政府は新型コロナウイルス感染症を 5 月 8 日から 2 類相当から 5 類に引き下げると決定をしましたが、問題なく移行出来ることを願うばかりです。

令和 5 年 1 月 1 日発行の北海道新聞に「プレイテックを活用した新しい意思伝達装置機器の研究開発が進んでおり、開発会社は 27 年の実用化を目指している」と紹介されました。

意思伝達装置は色々と販売されていますが、ALS 患者の病状により使用が難しくなる場合があります。ALS 患者にとって意思疎通が簡単に出来ることは、どれだけ療養生活が豊かになるか計り知れません。早い完成に期待したいものです。

今年の北海道支部総会は 6 月 4 日（日）北海道難病センターで開催する予定です。4 年振りの対面での総会となります。

医療講演は札幌市立大学看護学部 助教授 高橋先生をお迎えして「在宅療養について」です。5 月発送の「絆」で詳細をお伝えしますが、会員の皆様には是非ご参加くださるようお願いいたします。

まだまだ寒い日が続くと思いますが、皆様にはくれぐれもご自愛ください。

人間の脳波や血流量の変化を調べ、さまざまな分野に活用する技術「ブレインテック」が注目されている。「好き」「嫌い」といった感情や、高度な判断をしているときの脳波を測定。難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）で話せない患者の意思疎通を助けたり、言葉で伝えづらいベテラン社員の技能を人工知能（AI）に代替、継承させたりする。商品開発に活用する例も。米国などに追いつこうと国内の研究が盛んになってきた。

# 無意識の本音から新商品

## ALS患者の意思伝える

横浜市にある資生堂の研究所の一室に、脳の血流量の変化を計測するヘッドセットを着けた女性が座っている。化粧品を試作品の香りを嗅ぐと、パソコン画面の心地よさを示すグラフ(上段)が変化した。横濱市

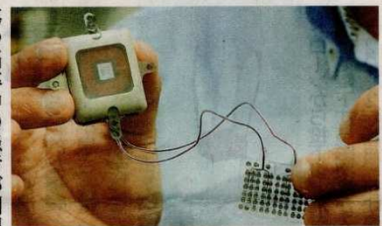
コンは即座に「心地いい」と感じた判定。口紅を手塗ると「心地よくない」と正確に気持ちを表示したことに驚いた。互恵シニアスペースチャリスト(58)は「言葉で表現しにくくても、脳ははっきりと違いを判断している」と話す。アンケートでは得られない消費者の本音を新商品の開発に生かしているという。



「患者や介護をする家族のため、早く現場に投入したい」と中村(社長35)。将来は脊髄損傷

大阪大発のベンチャー企業、JiMED(ジームド、大阪府吹田市)は、全身の筋肉が徐々に動かなくなるALS患者の意思疎通を助けるシステムを開発している。

手術で頭蓋骨と脳の間には3センチ四方の薄いセンサーを入れ、主に運動をつかさどる部位の脳波を測定する。頭蓋骨の外からヘッドセットで測るより精度が高く、患者はパソコンに意思を正確に伝えられ、スムーズに文章を作るができる。2023年に臨床試験で性能や安全性を確認し、27年の実用化を目指す。



JiMEDが開発した脳波計  
＝大阪府吹田市

「患者や介護をする家族のため、早く現場に投入したい」と中村(社長35)。将来は脊髄損傷